

第16回県病労大会（書面審議）

運動方針（案）、予算（案）は可決・成立

10月31日に開催予定であった第16回県病労大会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、書面審議とし、第1議案、第2号議案ともに、賛成39人（代議員定数57人）で、可決・成立しました。代議員からは、書面により、検査部門における嘱託職員の定型業務、最新の検査機器導入の必要性、感染症対策と地域連携、新型コロナ対応の手当新設等の意見が寄せられました。各分会のご協力、ありがとうございました。また、2020賃金確定闘争お疲れ様でした。引き続き、人員・職場要求闘争では、要求の前進を目指し頑張ります。

第1号議案 2020年度運動方針（案）

1. 賃金闘争
2. 反合理化闘争
 - (1) 人員・職場要求闘争
 - (2) 病院行革に反対するたたかい
 - (3) 新型コロナウイルス感染防止にかかる取り組み
 - (4) 労務管理強化に反対するたたかい
3. 組織強化の取り組み
 - (1) 組合加入の促進
 - (2) 総対話運動の定着・発展
 - (3) 分会・部会活動の強化
 - (4) 学習と交流を推進する活動の強化

賛成39人、反対0人

第2号議案 2020年度予算（案）

賛成39人、反対0人

※第16回県病労大会「報告と議案」参照。

意見・質問

●加古川医療C分会・小泉代議員

- ・検査部門の定型業務・非定型業務についての労使確認が守られていないのは問題。非定型業務への配置が困難なら、正規職員に置き換えるべ

き。

- ・情報収集を行い、最新の検査機器を揃えるべき。
- ・新型コロナウイルス感染症の被害規模は、欧米に比べ少ないが、永遠に続く感染症との闘いに素早く対応するため、病院、保健所、衛生研究所などが緊密に連携する必要がある。

→ 検査部門の定型業務と非定型業務との切り分けについては、各病院により実情が異なり、組合内部でも意見が様々で、統一对応が困難となっている。行革が終了したこともあり、定数回復を求めている。

検査機器や学会等への出張への予算確保については、その必要性を訴え、求めている。

感染症対策のための連携については、意見として受け止める。

●姫路循環器病C分会・北野代議員

- ・新型コロナ対応には、感染症防疫作業手当の特例措置が支給されるようになったが、救急外来等で緊急患者を対応する場合にも、マスク、フェイスガード、ガウン等を着け、負担が大きい。手当の新設をお願いしたい。

→人員・職場要求交渉の中で求めている。